

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 5 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2012

課題番号：20242003

研究課題名（和文） ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究

研究課題名（英文） COMPREHENSIVE DATA COLLECTION OF GANDHARAN ART AND ITS INTEGRATED STUDY

研究代表者

宮治 昭（MIYAJI AKIRA）

龍谷大学・文学部・教授

研究者番号：70022374

研究成果の概要(和文)：

パキスタン、インド、日本、欧米に散在する多量のガンダーラ美術（彫刻）を実地調査し、写真資料を収集して（総計 1,849 件）、それら画像に関する文字情報を入力して、データベース化のための基礎資料を作成した。これらの資料をもとに、インド・ヘレニズム・イランの諸文化を吸収しつつ独自の仏教美術を形成した様相を明らかにし、仏教信仰の実態にも迫った。その成果は中間報告書（平成 23 年 5 月）、全体報告書（2 冊）と国際シンポジウム報告書（平成 25 年 3 月）として刊行した。

研究成果の概要(英文)：

We carried out several missions to Pakistan, India and western countries as well as in Japan to collect the data of the impressive number of Gandharan Art, especially the sculptures now scattered among museums and private collections throughout the world. Totally 1,849 pieces in number having been investigated, we recorded the basic descriptive information with photographs to prepare the compilation of the database of those materials. Based on such numerous materials, we have examined some unique aspects of the Gandharan Buddhist art, which vigorously developed with the cultural influences from India, Hellenism and Iran, to bring us ever closer to the actual situations of the Gandharan Buddhism and its faith. The results of our research project are published in the following reports: the interim report (May, 2011), the Final report (2vols) and the proceedings of the international symposium (March, 2013).

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	10,100,000 円	3,030,000 円	13,130,000 円
2009年度	7,300,000 円	2,190,000 円	9,490,000 円
2010年度	8,100,000 円	2,430,000 円	10,530,000 円
2011年度	8,100,000 円	2,430,000 円	10,530,000 円
2012年度	7,700,000 円	2,310,000 円	10,010,000 円
総計	41,300,000 円	12,390,000 円	53,690,000 円

研究分野:人文学

科研費の分科・細目:哲学 美学・美術史

キーワード:ガンダーラ, 仏教美術, 東西文化交流, クシャーナ朝, 仏伝図, 仏像, 菩薩像, 仏三尊像

1. 研究開始当初の背景

ガンダーラは、アジアと欧州とを結ぶシルクロード

の中間地点に位置し、諸文化が衝突と融合とを繰り返した東西文化交流の要衝であった。仏教は

この地で変容・発展し、当地で繁栄した仏教美術がガンダーラ周辺域から東アジアにまで、多大な影響を与えた。したがって、ガンダーラ美術研究は、20世紀初頭より内外を問わず膨大な研究の蓄積がある。

従来のガンダーラ美術研究は、ヘレニズム・ローマ美術との様式的・図像的な比較研究、および遺跡・彫刻の編年研究に重点がおかれ、インド美術や文化との比較研究はあまり行われず、彫刻の編年に関してはJ.マーシャルのタキシラの発掘成果に基づいて行われてきた。

こうした状況の中で、近年イタリアのスイート地域の考古学的発掘調査が進み、その発掘報告書が刊行され、彫刻の編年研究も見直しが迫られている。また、この地域の政情不安に伴い、多量のガンダーラ彫刻が宝探的に発掘され、欧米や日本に流出した。ガンダーラ彫刻は発掘調査による出土品と、出土地不明の作品とを合わせると、パキスタン・インド以外に欧米・日本に散在し、多量の作品数となる。これらのガンダーラ彫刻の全体像をできる限り把握することがガンダーラ美術研究の基礎となる。

さらに近年彫刻のみならず、古い経典写本や刻文もガンダーラ地域から数多く発見され、文献学者・碑銘研究者によって解読が進められている。しかし、美術史学・考古学・文献学・碑銘学はそれぞれ別個に研究が行われている状況である。

2. 研究の目的

本研究では上記の研究背景のもと、大きく二つの課題に取り組むことを目的とする。

(1) ガンダーラ美術の資料集成

戦前・戦後に行われたガンダーラの正式な発掘や調査による出土品や収集品、およびここ20～30年の間に欧米や日本に流出したガンダーラ彫刻類をできる限り多くの実作品に当たって調査、撮影して画像資料を収集する。それらの資料を所属者別、またテーマ別に整理し、データベース化して資料集成を図り、ガンダーラ美術の全体像の解明に向けての基礎作業とする。

(2) ガンダーラ美術の統合的研究

ガンダーラ美術はインドから中央アジア・中国へと仏教美術が伝播し、大きく展開する上で、発展の転換点ともいべき位置を占める。インド、ギリシャ・ローマ、イランなどの多文化が並存し、融合して成立している、ガンダーラ美術の様相をモチーフ・図像の上から検討すると同時に、どのように諸文化が融合して新たな仏教図像が生成したかを明らかにする。そのためには、仏教思想・信仰が造形とどのように関わったかという視点が重要である。近年のガンダーラ出土の経典写本や刻文の研究、仏教文献学の研究の成果と連動させ、今まで別個に行われてきた諸分野の研究を、ガンダーラ仏教の実態はどのようなものであったかという視点のもとに、仏教美術史の研究を軸にし

て統合的な研究を行う。

3. 研究の方法

上記の2つの研究目的に照らし、本研究の方法について述べる。

(1) ガンダーラ美術の資料集成

パキスタン、インド、欧米、日本などの博物館・美術館・個人などに所蔵されるガンダーラ美術のコレクションを、できる限り実地調査する。写真撮影をして画像を収集するとともに、基礎的な情報を確認して収集する。ガンダーラ美術は“装飾的”モチーフ、“異教的”神話図像、本生図、仏伝図、菩薩像、仏三尊像、浄土図の構図、守護神像、供養者像など、その主題・図像・モチーフは多岐にわたるので、それらのテーマごとに命名してガンダーラ美術の資料を整理、編集して、データベース化する。また、過去に行われた研究代表者・分担者の調査により集積された関係するガンダーラ美術のデータも適宜組み入れ、データの集成を図る。

(2) ガンダーラ美術の統合的研究

上記のようにガンダーラ美術はテーマ・モチーフが多様であり、それらの全体像を明らかにすべく、インド・ギリシャ・ローマ・イラン等の美術・文化と比較するとともに、それら諸文化の融合によって新たな図像が生成される様相を検討する。その際、仏教の思想・信仰がどのように関わったかを仏教経典の成立史的研究と関係づけて解明する。特に仏伝図と仏伝経典、仏三尊像や浄土図の成立と大乘経典について、美術史学と文献学の研究を統合することによって明らかにする。さらに、ガンダーラ仏教の実態を明らかにすべく、考古学・美術史学・仏教学・仏教史学の研究者と連携しつつ多角的・統合的研究を行う。

4. 研究成果

(1) ガンダーラ美術の資料集成

5ヶ年にわたって諸外国と日本の博物館・美術館所蔵および個人所蔵のガンダーラ彫刻の調査・写真撮影を行った。すなわち、パキスタン 5箇所 104件、インド 7箇所 605件、アメリカ 11箇所 294件、カナダ 1箇所 42例、ドイツ 1箇所 81件、イギリス 2箇所 193件、フランス 1箇所 270件、日本 7箇所 260件、総件数 1849件である。これらの作例はファイルメーカーを用いて博物館・美術館・個人所蔵者別に分類し、1件ずつ名称・法量・出土地・掲載図版・備考などの諸データを入力し、データベース化のための基礎資料を作成した。また、研究代表者が本研究以前に行ったガンダーラ美術の画像資料もこの資料集成に加えるためのスキヤニングを行った。今回の実地調査と資料集成によって、ガンダーラ美術の全体像が所蔵別、並びに主題・モチーフ別に把握することが可能となった。また、新出の

作例や所蔵先の刊行物に未掲載の作例、主題不詳であった作例などが明らかとなり、ガンダーラ美術の全体像の解明のための基礎資料が作成できた。一方、完全な形でのデータベースの構築には、用語の統一や細部にわたる情報（過去の発掘報告や個別の研究など）の収集、および入力作業が必要である。

(2) ガンダーラ美術の統合的研究

ガンダーラ美術は多様な側面をもっているもので、問題点を整理して、美術史学を軸にしなが、考古学・仏教文献学(写本・碑銘研究を含む)・仏教史学の研究者と協力しつつ、テーマを設定した研究会、国内シンポジウム、国際シンポジウムを開催した。その結果、主に以下の五項目について多くの新知見を得ることが出来た。すなわち、①ガンダーラ彫刻の編年研究と仏像の起源、②異教的テーマと仏教の習合の様相、③仏伝美術と仏伝經典の比較研究による“仏伝説話”の生成の様相、④ガンダーラ美術と大乘仏教との関わり—菩薩像/仏三尊像/仏国土・浄土図/阿弥陀信仰—⑤美術を通して見たガンダーラ仏教の様相—インドと中央アジア・中国とを結ぶ位置づけ—、である。それぞれの具体的な内容は報告書や個別の発表論文等を参照されたいが、本研究によってアジアにおいて、特に北伝仏教、大乘仏教の成立と展開にとって、ガンダーラが重要な位置を占めることが明らかになった。今後さらにこうした方向性をもった研究の推進によって、より具体的にガンダーラ美術と仏教の実態が明確化されよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 46 件)

- ① 岩井俊平「アフガニスタンの仏教遺跡群 メセ・アイナク」『仏教芸術』325 号, 査読有, 2012 年, pp.69-93, p.4.
- ② 田辺勝美「ガンダーラ美術の図像学研究 (6): イルカを持つ船乗りとその仲間たち」『中央大学政策文化総合研究所年報』第 15 号, 査読無, 2012 年, pp.3-37.
- ③ 田辺勝美「インド人仏教とは何故、仏陀釈尊像を創らなかつたのか? —布施と生天思想と仏陀無き仏伝図—」『南アジア研究』22, 査読有, 2011 年, pp.234-244.
- ④ 永田郁「南インド・アーンドラ地方の宗教美術の様相について—「なぜ菩薩像が造像されなかつたのか」をめぐる—」『崇城大学芸術学部研究紀要』2, 査読無, 2009 年, pp.19-43.
- ⑤ 芳賀満「俗と聖の接吻—新出の「ディオニュソス」像テラコッタを中心として古代地中海世界から中国まで」『西洋美術研究』15, 査読有, 2009 年, pp.16-39.

- ⑥ MIYAJI Akira, “Iconography of the Two Flanking Bodhisattvas in the Buddhist Triads from Gandhara — Bodhisattva Siddhartha, Maitreya and Avalokitesvara—”, *East and West*, vol. 58. nos. 1-4, 査読有, 2008, pp.123-156.
- ⑦ 岡本健資「為母説法と涅槃経—『摩訶摩耶経』を手がかりとして」『仏教史学研究』50-2, 査読有, 2008 年, pp. 1-18.

[学会発表] (計 61 件)

- ① 宮治昭, 「仏像学の提唱—異宗教の受容による仏教尊像の生成—」, 密教図像学会, 2012 年 11 月 17 日, 龍谷大学大宮学舎.
- ② 佐藤智水, 「中国北朝造像銘の調査・研究から見えるもの」, 2012 年 11 月 17 日, 大谷大学 1 号館 2 階 1113 教室, 仏教史学会学術大会.
- ③ 宮治昭「バーミヤーンの仏教世界」, 中村元 東方学術賞受賞記念講演, 2012 年 10 月 11 日, 松江市くびきメッセ国際会議場.

[図書] (計 73 件)

- ① 宮治昭編『ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究』, 平成 20 年度~24 年度科学研究費補助金研究成果報告書, 2vols, 龍谷大学, 2013 年, pp.1-584.
- ② MIYAJI Akira ed., *Buddhism and Art in Gandhara and Kucha*, Ryukoku University, 2013/ 宮治昭編『2012 年度国際シンポジウム報告書 ガンダーラ・クチャの仏教と美術』, 龍谷大学, 2013 年, pp.1-200.
- ③ FUKUYAMA Yasuko, “Iconographic development of the Miracle of Sravasti at the Ajanta caves”, *SIVASRI : Perspectives in Indian Archaeology Art and Culture*, Agam Kala Prakashan, 2013, pp.1-310.
- ④ MIYAJI Akira, *Collected Essays on the Arts of Gandhara and Bamiyan*, Ryukoku University, 2012, pp.1-260.
- ⑤ 芳賀満「海獣スキュラの変容と東漸—ユーラシア大陸におけるギリシア図像の伝播とそのオリエントによる吸引」『百橋明徳先生退職記念献呈論文集』, 中央公論美術出版社, 2013 年, pp.534-562.
- ⑥ 宮治昭編『ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究』, 平成 20 年度~24 年度(予定)科学研究費補助金研究成果中間報告書, 龍谷大学, 2011 年, pp.1-320.
- ⑦ 宮治昭『インド仏教美術史論』, 中央公論美術出版, 2010 年, pp.1-702.
- ⑧ KOIZUMI Yoshihide, “The finds from Zar Dheri”, *Gandhara-The Buddhist Heritage of Pakistan-Legend, Monastries, and Paradise*, Verlag Philipp von Zabern, Mainz 2008, pp. 308-313.
- ⑨ TANABE Katsumi, “Gandharan Bodhisattva

Maitreya Image-Soteriological Function of Ketos and Eros”, *South Asian Archeology 2007*, Special Sessions 1, *Miscellanies about the Buddha Image*, ed. By Cl. Bautze-Picron, Oxford, 2008, pp. 97-107.

- ⑩ MIYAJI Akira, “Aspects of the Earliest Buddha Images in Gandhara”, *South Asian Archeology 2007*, Special Sessions 1, *Miscellanies about the Buddha Image*, ed. By Cl. Bautze-Picron, Oxford, 2008, pp. 25-42.

6. 研究組織

(1)研究代表者

宮治 昭(MIYAJI AKIRA)
龍谷大学・文学部・教授
研究者番号:70022374

(2)研究分担者

市川 良文(ICHIKAWA YOSHIFUMI)
龍谷大学・文学部・准教授
研究者番号:70440881

入澤 崇(IRISAWA TAKASHI)
龍谷大学・文学部・教授
研究者番号:10223356

岩井 俊平(IWAI SYUMPEI)
龍谷大学・龍谷ミュージアム・講師
研究者番号:10392549

岡本 健資(OKAMOTO KENSUKE)
龍谷大学・政策学部・講師
研究者番号:10425043

小泉 恵英(KOIZUMI YOSHIHIDE)
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部・企画課長
研究者番号:40205315

佐藤 智水(SATO CHISUI)
龍谷大学・文学部・教授
研究者番号:40116463

田辺 勝美(TANABE KATSUMI)
(財)古代オリエント博物館・その他部局等・共同研究員
研究者番号:90013755

永田 郁(NAGATA KAORU)
崇城大学・芸術学部・准教授
研究者番号:20454952

芳賀 満(HAGA MITSURU)
東北大学・高等教育開発推進センター・教

授

研究者番号:40218384

福山 泰子(FUKUYAMA YASUKO)
龍谷大学・国際文化学部・准教授
研究者番号:40513338

山田 明爾(YAMADA MEIJI)
龍谷大学・仏教文化研究所・研究員
研究者番号:20081177

(3)連携研究者

()

研究者番号: